

是海舟の壹本水押也、川舟は貳枚水押にて、中に有を咽込と云、上に有板を棹走と云、是小舟より大船まで荷舟の制也。

川御座船は箱造り也、伊勢船の箱造りより始か、この故に海舟箱造りにする者、吾妻表と稱す、箱造りの小名 置板艦先の置板也、沖板と書は非也、 戸立箱先戸立と云、 扇板左右に有、其形扇子、 夾蓋戸立の上は小蓋抄蓋と書は非也、 箱縁左右の如し、有板箱の如し、

〔和漢船用集十船處名〕 舩 舩は舩也、舟方に深を足と云、幅を肩と云による、舩の間、二ノ舩、三ノ舩と呼、檣床間也。

〔倭名類聚抄十一船具〕 舟答 釋名云、舟中床、所以席物曰答、力丁反、布奈度古、 言但有簀、如答床也。

〔箋注倭名類聚抄三舟具〕 按釋名釋車、答、橫在車前、織竹作之、孔答々也、則知答床、謂織竹爲床者、其孔答々也、舟答似之、得是名也。

〔類聚名義抄八竹〕 舟答 フナトコ

〔伊呂波字類抄不雜物〕 舟答 フナドコ

〔三十二番職人歌合〕 十番 左

櫻川花にゆるさぬふなどこをおしてはいかゝわたるはる風

渡守

〔和漢船用集十船處名〕 加鋪 航に付の舟側也、航を鋪と云、鋪に加ゆるの心也、又荷鋪と書、根柁とも云、梶木と書は、甚非也、川舟にて洞と云、舩洞 表之洞是を表直と云、 舩之洞是を舩直と云、 洞と云こと、船側の中のくぼくぼりて、はらにするの名也。

〔和漢船用集十船處名〕 舩底 駒陰元記曰、伴落簀舩底、又三體詩、季伸が句に、船底黏沙、鼠璞曰、登萊一帶、惟平底可用過洋用、尖底と見へたり、會典曰、海運用遮洋船、裏河用淺船、是海舟河船の製異なること、和漢同、海舟は尖底、河舟は平底也。